

専 門 分 野 Ⅱ ・ 老 年 看 護 学 実 習 の 計 画

実習目的	健康障害をもつ高齢者の特徴をふまえ、経過に応じた看護が実践できる。	
授業科目	老年看護学実習Ⅰ	老年看護学実習Ⅱ
実習目標	1. 高齢者の望む生活や、加齢現象・健康状態を理解し、必要な援助について考えられる。 2. 健康障害をもつ高齢者に、疾病や治療の経過、症状に応じた援助ができる。 3. 高齢者の苦痛や気がかりに関心を寄せ、尊重した態度がとれる。 4. 患者の看護に責任をもつ行動について理解できる。	1. 高齢者とその家族の望む生活や、加齢現象・健康状態を理解した看護が判断できる。 2. 多様な健康状態にある高齢者とその家族に対して、健康レベルに応じた看護が実践できる。 3. 高齢者とその家族との援助関係が形成できる。 4. メンバーの一員としての自覚を持ち、受け持ち患者のケアが継続できるような役割発揮ができる。
実習方法	周手術期・リハビリテーション期・慢性期にある高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。	多様な健康状態（急性期、慢性期、終末期）にある患者・家族への看護実践
	1 グループ 3～6 名の配置	1 グループ 3～6 名の配置
実習時期	2 年次後期	3 年次
単位・時間数	2 単位 90 時間	2 単位 90 時間
評価	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。	実習状況、実習レポート等から総合的に評価する。実習評価表は実習要綱に提示する。
先修条件	老年看護学概論Ⅰの履修 基礎看護学実習Ⅲの単位修得	老年看護学の全科目の履修 基礎看護学実習Ⅲの単位修得